

静岡県連のうた

Handwritten musical score for "静冈県連のうた" (Song of the Shizuoka Prefecture Federation). The score is written on a grand staff with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The music is in 4/4 time. The lyrics are written in hiragana below the notes. Chord symbols (Cm, G, Fm, C7) are placed above the staff to indicate the harmonic structure.

Lyrics:

ながたる ほし の- たにまに いこら-
 かねさう ふにり- たしかな すかいなが
 ま-あ と-あつくみどりのの-や ま—(のやま)はた
 わ-あ と-しんあいするな-か ま—(ながま)さか
 し-あ き-のぼるわかすのゆめ- なが い-
 さ-あ ち-あかせつくりきほ- ます い-
 あまふに ゐか り- ぶるま と のやま-
 あまきつ めたほ- ほくきん のもる-
 しあまか けん かん- ああああうう ぎん へい
 しあまか けん かん-
 ああああうう ぎん

静岡県連のうた

(静岡県連30周年記念応募歌)

作詞 杉澤 康秀 (三島労山)
大場 保司 (遠州HC)
池田 とし (安倍っ子)
後藤 隆徳 (裾野麗峰)
作曲 後藤 隆徳 (")

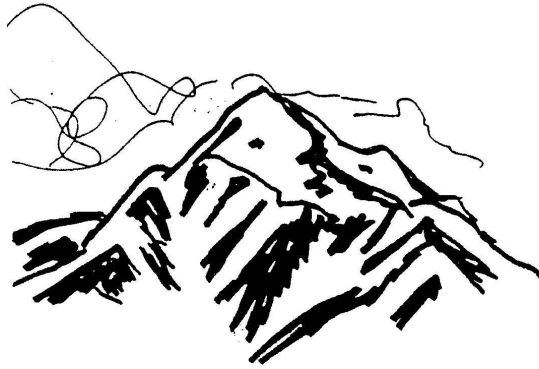
流れる星の 谷間に憩う
語らう ふたり
確かな 誓い
仲間と 歩く 緑の 野山 (野山)
はたらき 登る 我らの 夢 願い

朝日に 光る 故郷の 山
静岡県連 あああああ 労山

平和と 自然 愛する 仲間 (仲間)
力を 合わせ つくりし 希望 未来

仰ぎて見れば 白銀つもる
静岡県連 あああああ 労山

静岡県連 あああああ 労山



[1996・06・23]

裾野麗峰の歌

作詞 杉浦 康秀、後藤 隆雄
作曲

あしたかみ-ゆ-には-るおとず め -
 の-こみり-るんせ-に-ぶんせつひか ん -
 ヤマメ に-かもし-が- わねをよ ふ -
 ヤマよ ヤマよ ヤ-マ- よ- すその かわぼう よ -

裾野麗峰の歌

- 一、愛鷹^{あしたか}連峰に春訪れ
 鋸^{のこ}ルンゼに 残雪光る
 ヤマメにカモシカ 我を呼ぶ
 山よ山よ山よ 裾野麗峰よ
- 二、同角沢に入道湧いて
 ワラジに伝わる 冷たき流れ
 明日はザンザ洞 小川谷
 山よ山よ山よ 裾野麗峰よ
- 三、箱根の連峰の ドウダン染まり
 紅燃ゆる境川
 心の山よ故郷よ
 山よ山よ山よ 裾野麗峰よ
- 四、俺の肩には真つ赤なザイル
 仰ぐ岩壁氷の岩場
 仲間も笑顔で登りゆく
 山よ山よ山よ 裾野麗峰よ

丘山 (川口智也追悼歌)

作詞 長瀬 隆雄
作曲 長瀬 隆雄

ゆくりが強く

は - 3 - が - は 3 (じ) え つ の -
 E - が き み - が - ぶ - が き だ - に -
 Ab Fm G7 Ab G7
 あ - こ が - の - や - ま や ま に -
 Cm Fm Cm G7 Cm
 か - こ お ど は - い ま の - は り か く -

丘山 (川口智也追悼歌)

一、はるかなる 上越の
 高き峰 深き谷
 あこがれの 山々に
 若人は 今 登りゆく

二、灰色の 岩壁の
 岩と雪 沢と滝
 美しき 峰々の
 高みさし 今 登りゆく

三、はてしなき 山波の
 谷間に咲く 白いユリ
 風にゆれ 何に想う
 山は今 静かにくれる

【川口智也追悼歌】は、完全なオリジナル曲です。
 ノンコードで書きました。

あこがれの剣に

作詞 杉澤康秀、後藤隆徳

作曲 後藤隆徳

Handwritten musical score for 'あこがれの剣に'. The score is written in treble clef, 3/4 time, and B-flat major. It consists of seven staves of music. The first staff begins with a key signature change to B-flat major and a 3/4 time signature. The music features various chords including Fm, Bbm, C7, and Fm. There are also dynamic markings such as 'f' and 'D.F.' at the end of the piece.

あこがれの剣に (柳下紀之追悼歌)

一、瞳とじれば 想いくる
白く輝く 早月尾根
アイゼンきしませ ビッケルかざし
笑顔で立てる 君の姿よ

二、耳を澄ませば 聞こえてくる
高くそびゆる 剣の岩
撞れの峰を ふみしめて
明るく響く 君のコールが

三、いとしの君は もういない
呼んでみたとして 帰らない
岳よ 空 雲よ 伝えてくれ
君の笑顔は 忘れはしない

年人のうた

作詞 不詳
作曲 C

♩ = 106

ほしがふるあ-の-こ-る ぐり-せ-と-び-あの
 F Bb F C7 F
 むとはくる-か し-は- はなをくわえ-て-あ
 Bb Cm F Dm G7 C7
 る-ふ-す-の くろかり- こころときめくよ-な
 F Bb F C7 F
 かのが-く-じ-ん やさし-か-のき み-

1
 星がふるあのコル
 グリセードで
 あの人はくるかしら
 花をくわえて
 アルプスの恋歌 心ときめくよ
 なつかしの年人
 やさし彼の君

2
 白樺にもたれるは
 いとし乙女が
 あの黒百合のはなを
 胸にいたいて
 アルプスの黒百合 心ときめくよ
 なつかしの年人
 やさし彼の君

山は心のふるさと

赤星正明 詞曲

The musical score is written in G major, 4/4 time. It consists of seven staves of music with lyrics underneath. The lyrics are:

 やまは やまは やまは こきこみ

 ろのふるさとよ やまは やまは やまは なか

 らのふるさとよ やまは やまは やまは みん

 まのふるさとよ ゆきと いわともりに いた

 なのふるさとよ はなと とりとほし

 ちをもやし あしたのために ゆこ

 しみがら みんなととも

 うやまへゆこう うやまへゆこう みんな

 ひとつもーに ゆこう やまへ ゆこう

一
 山は山は山は
 心のふるさとよ
 山は山は山は
 仲間のふるさとよ
 雪と岩と森に
 生命を燃やし
 明日のために
 行こう山へ行こう

二
 山は山は山は
 きみらのふるさとよ
 山は山は山は
 みんなのふるさとよ
 花と鳥と星に
 親しみながら
 みんなとともに
 行こう山へ行こう
 みんなとともに
 行こう山へ行こう

雪山に消えたあいつ

沢ノ井千江兒 詞 上條たけし 曲

Dm A7
 やまがいのちと わらったあいつ
 Dm A7 Dm
 やまをいらばん あいしたあいつ
 Gm C7 F Dm C7 A7
 ゆきーの ほだかーよ こたえておくれ
 Dm Gm Dm A7
 おれに ひーとーこと おしえておくれ
 Dm A7 Dm
 なんてふぶきに あいつはきえた

* 親しい山仲間を失った切なさは、経験してみないとわからないでしょう。どうして！ それ以上は言葉になりません。

二

重いザイルを かついだあいつ
 銀のピッケル 振ってたあいつ
 山をこの俺 うらみはせぬが
 あんない奴 どこにもいない
 なんて吹雪に あいつは消えた

一

山が命と 笑ったあいつ
 山を一番 愛したあいつ
 雪の穂高よ こたえておくれ
 俺にひとこと 教えておくれ
 なんて吹雪に あいつは消えた

三

夢にやぶれて かえらぬあいつ
 雪に埋もれて 眠ったあいつ
 山の木霊よ かえしておくれ
 俺にも一度 やさしい笑顔
 なんて吹雪に あいつは消えた

山への祈り

深塚 井摩

忠作 阿曲

一

雪のはだにそっと 耳をあてれば
美しい歌が きこえてくる

山の胸にねむる 生命の声か

二

雪の中の谷間 岩のほとりに
つつましくゆれる 白い花

山の胸にねむる 生命の姿

三

雪もとけて山に 春がめぐれば
ひとすじの煙 立ちのぼるよ

山に別れを告げる 生命のこころ

山への祈り

深塚 忠 作詞

深塚 井摩 作曲
矢野 龍渓 編曲

Andante

Cm Fm G7

1. ゆきのはだに そーっと みみをあてれ ばに
2. ゆきのなかの たにーま いわのほとり

A7 E7 A7 Fm G7 to C

う つくしい うたが き こえてく るな
つ つましく ゆれる し ろーいは

Cm|1,2 G7 Fm G7 Cm

やまのむねに ねむる いのちのこが かな
やまのむねに ねむる いのちのこが かな

Coda

やまにわかれをつげる いのちのこころ



石嶺山(二九八m)
頂上に石船神社があるが、夏の大祭の時だけ神様が
この頂上の御社にお上りになる。そしてそのお祭りに
は白装束の僧者が夜道を列をなして登山する。
山頂の直下は岩場で、一の嶺、二の嶺と、鉄の短丈
な鎖のかけられたところがあり、僧者たちは敬虔な気
持で鎖にすがりながら頂上に立つのである。
まことに信仰の山にふさわしい威厳のある頂上で太
平洋、瀬戸内海、さらにその彼方に伯耆の大山まで眺
められる風景も豪華だが、四圍の草叢こぼれるだけ
に、アルペン的な風格が魅力。

☆一九六二年、うたごえの
ソノシートのために作って
もらった歌です。この時藤
塚、深井両氏のコンビで
、みんなが山へ登るのは、
と二曲作りしましたが、山
への祈り、は好評で、山
仲間たちにも歌われている
ようです。